

学位被授与者氏名	園田 葉子（そのだ ようこ）
論文題目	構造論派社会福祉学理論を中心とした地域包括ケアシステムの検討
論文審査結果の要旨	<p>本研究について、主査・副査からは以下のような評価・コメントが出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全体的によく内容をまとめることができていた。ただし、本質論を研究しようとするのであればもう少し慎重に言葉選びをすべきである。数カ所、観念的表現が見られた。 ● 問題のフレームは明確であり、最後の主張も明確である。ただし、その主張に向けて一気に駆け抜けた感が拭えなかった。ソーシャルワーク（社会福祉学）の専門外の読み手も意識して、具体的な事例（ケースや公式統計等）を要所に取り入れて論証していれば、さらに分かりやすい内容となったと考えられる。 ● 社会福祉学理論において構造論派が弱体化し、機能論派が主流派としてますます存在感が増した背景にどのような要因があったと言えるのか、発展的に研究へ取り組んでもらいたい。 ● 今日の社会福祉運動、そしてソーシャルアクションが、何故、衰退しているのか。マスコミが共感して社会問題（人権問題を含む）をクローズアップすることはあるが、全国民的な共感には至っていないように感じられる。今後の研究課題としてその辺りについても研究課題として取り組まれることに期待したい。 ● 社会福祉学における運動論が持つ可能性は、存在しているのではないか。論争から学ぼうとすることに意義があると考えられる。 <p>2023年2月21日に、北九州市立大学北方キャンパス3号館3-218教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士（人間関係学）として十分な内容であると判定した。</p>